

氏 名	布野 慶人
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	乙第334号
学位授与年月日	令和4年9月7日
審 査 委 員	主査 教授 岩下 義明
	副査 教授 渡部 広明
	副査 准教授 遠藤 昭博

論文審査の結果の要旨

心肺機能停止患者の社会復帰ためには、出来るだけ早期に自己心拍再開（ROSC）となることが重要とされている。これまで心肺機能停止患者が病院へ到着した後での ROSC に関わる因子については論文が散見されるが、病院前救急医療においての検討はほとんどない。そこで申請者は、病院外心肺機能停止（OHCA）症例の病院到着までの ROSC に関わる因子についてウツタイン様式データベース（総務省消防庁）を用いて横断的研究を行った。2010 年に日本で発生した OHCA のうち除外症例以外の 30,704 例を用いた。記述統計ならびにロジステック解析を行った。ロジステック解析では ROSC 有無の 2 群とし、独立変数は「年齢」「性別」「救急救命士乗車」「医師乗車」「医師二次救命処置」「市民心肺蘇生」「市民除細動」「通信指令課職員口頭指導」「初期心電図波形」「救急隊除細動」「救急隊の器具による気道確保」「救命士エピネフリン投与」「心原性」「目撃から覚知までの時間」「目撃から心肺蘇生までの時間」である。無しを基準値 1 としてオッズ比（OR）を求めた。多変量解析における OR は、初期心電図 心室細動/心室頻拍（VF/VT）：7.87 (7.09-8.72)、救命士エピネフリン投与：3.09 (2.84-3.35)、医師乗車：3.06 (2.68-3.49)、救命士乗車：1.56 (1.17-2.09)、市民除細動：1.55 (1.22-1.96)の順に ROSC に対して高い寄与を示した。これらの結果は、地域の除細動機器 AED 視認性、VF/VT 症例を早期に目撃する仕組み、救急救命士による薬剤投与、ドクターカーの有用性について検討していくことが OHCA での ROSC 割合を上昇させる可能性があることを示唆している。本研究は、今後重要となってくる病院前救急医療あり方改善のための有益な知見であり、学位授与に値する成果である。